図画工作科主張

１．図画工作科における学び

子どもはこれまでの経験から一人ひとり、自分にとっての表現の意味や価値をもち合わせている。ここでいう経験とは、その子の中で培われてきたものや直前にその子が得たものであり、表現とは、「自分のおもいを表したい」「何かを伝えたい」というおもいをもち、動き出すことと考えている。題材の中で、様々な対象と出合った子どもが対話や鑑賞によって他者の表現にふれ、自己と他者の間で、おもいや表現が響き合う中で、自分のおもいや表現を見つめ直したり、そのおもいを表現するための方法や順序を選択したりしていきながら、自分なりの表現の意味や価値を見出していく。私たちは、このようなプロセスが図画工作科における学びであり、「表現の意味や価値をつくりだすこと」であると考えている。このようなプロセスを積み重ねていくことにより、その子がもち合わせている色や形などの造形的な視点が磨かれ、その子の見える世界が変わり、人生を彩り豊かにすることにつながっていくと考えている。

２．本校図画工作科部が考える『その子らしく学ぶ』

授業の中で、子どもは対象と出合い、「いいこと思いついた。やってみよう」「こうしたらどうなるかな」「こんなものを表したい」などというおもいを抱き、「もの・こと・ひと」に働きかけたり想像力を働かせたりしながら、その子の造形的な視点で表現を楽しむ。その過程で、その子なりの造形的な視点を働かせ、即興的・創発的な表現をし、様々な表現、現象、価値などと出合っていく。それらの出合いは、その子らしさに影響を与え、その子自身を豊かにしていく。その経験を基に再度、即興的・創発的に表現していく中で、その子ならではの学びとなり、造形的な視点も磨かれていく。そのプロセスを歩むことで、その子が今まで何気なく見ていた世界に価値あるものや魅力的なものが増え、これまで見えていた「もの」や「こと」の見え方がより広く深くなる。ゆえに、見える世界が変わり、その子の人生が彩り豊かになっていくことにつながるだろう。

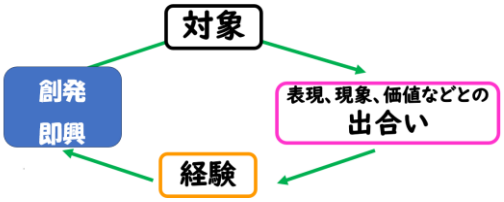

図１　図画工作科における『その子らしく学ぶ』
子どものプロセス

これらのことから、図画工作科における『その子らしく学ぶ』とは

その子の造形的な視点が磨かれその子の見える世界が変わっていく

と考えている。

※造形的…色や形などのこと

３．『その子らしく学ぶ』を支える環境設定

（１）対象との出合いの工夫

その子の学びの中には様々なタイミングで、多種多様な出合いが訪れる。材だけでなく、題材名、現象、場や他者の表現・主題などの対象との出合いも、即興的・創発的な表現に影響を与えるものである。そこで、様々な対象との出合いに目を向け、題材構想や子どもの学びの場の環境設定を随時更新していきながら実践をする。

（２）その子のプロセスを様々な視点で捉える

子どもは即興的に表現したことをつなぎあわせ、新たな表現を創発していく。そのプロセスにみられる、その子らしさ（造形的な視点も含む）をとらえ、かかわることが、『その子らしく学ぶ』その子をよきタイミングで支えることができるだろう。そのために、子どもがおもいを記録できる機会（ふり返りや自分の表現を写真に残すなど）を設けたり、その子らしさの視点から言動（言葉、動き、表現）をつぶさに見取っていく。